資料１－３

直轄工事における総合評価方式の実施状況
（平成２０年度 年次報告（案））

国土技術政策総合研究所

作成の目的について

- 本年次報告は、国土交通省における総合評価方式の現況を取りまとめ、公表することにより、同方式の普及・拡大、ダンピング防止策、入札契約制度に関する諸課題への確実な対応に資することを目的として作成するものである。

【構成（案）】

1. 平成20年度　年次報告のポイント
2. 総合評価方式の実施状況
   - 2-1. 普及・拡大の状況
   - 2-2. 落札者の状況
   - 2-3. 高度技術提案型の実施状況
   - 2-4. 施工体制確認型の実施状況
3. 実績重視型の実施状況
   - 3-1. 補正予算による簡易型工事のうち実績重視型の実施状況
   - 3-2. 実績重視型の評価項目、配点・得点
   - 3-3. 落札件数別の業者数内訳
   - 3-4. 実績重視型による期間短縮
   - 3-5. 工事の成績評定と技術評価点の関係

1. 平成20年度 年次報告のポイント

1. 平成20年度　年次報告のポイント

新　規

（1）総合評価方式の普及・拡大の状況

- 総合評価方式の適用率は年々増加し、平成19年度にほぼ100%に達し、平成20年度も同様にほぼ100%の状況である。（件数ベース：98.8%、金額ベース：99.7%）。【P8、P9】
- タイプ別の実施件数でみると、簡易型は平成19年度に約9,600件だったのが、平成20年度に約7,300件となり、標準型は平成19年度に約1,200件だったのが、平成20年度に約3,600件となった。これは、平成19年度まで簡易型で実施されていた工事の一部が平成20年度より標準型（Ⅱ型）で実施されることになったためである。【P8】

※「標準型（Ⅱ型）」と「簡易型」の違いについて

- 「標準型（Ⅱ型）」は、技術提案により更なる品質向上を図る場合に適用される。品質向上を図る必要のある事項について特定の課題（1～2課題を基本）を設定し、技術提案を求めること（1課題あたりA4　1枚以内を基本）としている。
- 「簡易型」は、発注者が示す仕様に基づき確実に施工することを求める場合に適用される。簡易な施工計画として、「どういう点に配慮して工事を施工するか」（施工上配慮すべき事項）について求めること（A4　1枚以内を基本）としている。

1. 平成20年度　年次報告のポイント

新　規

(2)落札者の状況

- 平成18年度と平成20年度を比較すると、簡易型、標準型ともに、最高得点者(最低価格者以外)が落札した割合が増加した。一方で、最低価格者(最高得点者以外)が落札した割合は、減少した。【P10、P12】
- 簡易型では、平成20年度は平成19年度に比べ、加算点満点が「50点以上」のものの割合が減少し、「30～40点」のものの割合が増加している。これは、平成19年度まで簡易型で実施されていた工事の一部が平成20年度より標準型(Ⅱ型)で実施されることになったためと考えられる。【P11】
- 標準型では、平成20年度は平成19年度に比べ、加算点満点が「70点以上」のものの割合が減少し、「30～40点」のものの割合が増加している。これは、平成19年度まで簡易型で実施されていた工事の一部が平成20年度より標準型(Ⅱ型)で実施されることになったためと考えられる。【P13】

1. 平成20年度　年次報告のポイント

新　規

(3)高度技術提案型の実施状況

- 平成20年度の高度技術提案型において、高度技術提案型では、落札率75%以下のものが見受けられる。なお、低入札件数と割合の推移をみると、平成20年度は平成19年度に対し、低入札の状況に変化はみられない。【P14】

(4)施工体制確認型の実施状況

- 平成20年度において、簡易型、標準型とも、施工体制確認型は施工体制確認型以外に比べ、落札者の応札率(平均)が高く、応札率75%を下回る応札はほとんど見受けられない。【P15】
- 簡易型、標準型において、落札率別の工事成績評定点(平均)をみると、平成18年度の施工体制確認型実施以前の落札率70%未満の工事に比べ、平成19年度の施工体制確認型の落札率70%～80%の工事成績評定点が2.6点高い。【P16】
- 平成18年度、平成19年度の簡易型の工事成績評定点をみると、施工体制確認型以外では、多くの工種で、落札率70%未満の工事の工事成績評定点が落札率70%以上の工事より低い。【P17】

1. 平成20年度　年次報告のポイント

新　規

(5)実績重視型の導入効果

①実績重視型の実施状況

- 各地整での補正予算により発注した簡易型工事件数のうち実績重視型の実施件数の割合をみると、全てが実績重視型である地整や、約6割が実績重視型である地整がある一方、実績重視型の割合が約2割の地整も見受けられる。【P19】

②実績重視型の評価項目、配点・得点

- 評価項目別配点の配点割合をみると、配置予定技術者又は企業の施工能力（工事成績評定、表彰、施工実績（同種・類似工事等）など）の配点割合は、平成19年度の簡易型（実績重視型導入以前）では、3割～6割程度であったが、平成20年度に実施した実績重視型では、5割～9割程度となった。【P20】
- 実績重視型（全工種）の落札者の得点内訳をみると、配置予定技術者又は企業の施工能力（工事成績評定、表彰、施工実績（同種・類似工事等）の割合は4割～9割程度である。【P21】

1. 平成20年度　年次報告のポイント

新　規

③実績重視型の落札件数別の業者数内訳

- 落札件数別の業者数を全国ベースでみると、全工種の場合、実績重視型329件のうち、落札件数1件の業者が約9割（247社）である。これに落札件数2件（30社）を加えると、ほぼ100%である。【P22】

④実績重視型による期間短縮

- 平成20年度の実績重視型を導入した工事における公示日から入札日までの平均所要日数は、実績重視型を導入していない工事に比べ、半数の地整で2週間以上短縮し、3週間程度となっている。【P23】

⑤工事の成績評定と技術評価点の関係

- 平成20年度の簡易型において、工事成績評定点の分布をみると、「実績重視型以外」のピークの方が、実績重視型の工事より高い得点域にあるが、平均点を比較すると「実績重視型」「実績重視型以外」とも75点程度である。【P24】

2. 総合評価方式の実施状況

2-1. 普及・拡大の状況

総合評価方式の適用率は年々増加し、平成19年度にほぼ100%に達し、平成20年度も同様にほぼ100%の状況である。(件数ベース:98.8%、金額ベース:99.7%)。

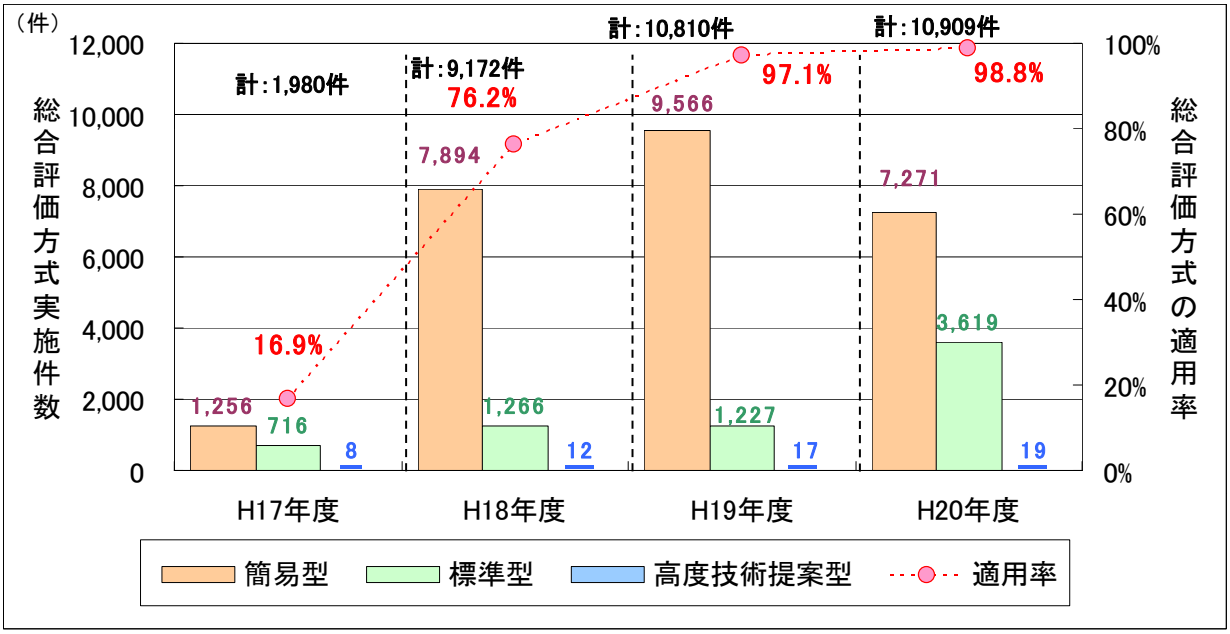


図1　年度別・タイプ別の実施状況(件数)

注1)8地方整備局における実施件数。
注2)適用率は随意契約を除く全発注工事件数に対する総合評価方式実施件数の割合。

2-1. 普及・拡大の状況

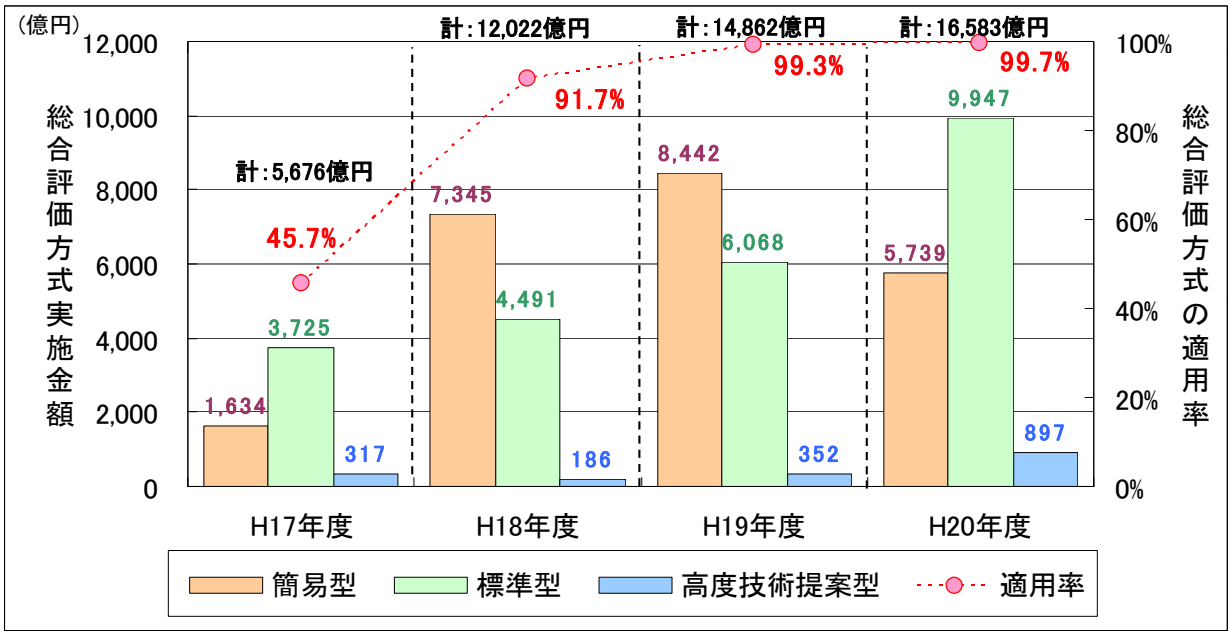


図2　年度別・タイプ別の実施状況（金額）

注1）8地方整備局における当初実施金額。

注2）適用率は随意契約を除く全発注工事金額に対する総合評価方式実施金額の割合。

2-2. 落札者の状況

最高得点者（最低価格者以外）が落札した割合は、平成18年度の14．5％に対し、平成20年度は28．2％と13．7ポイント増加した。

一方で、最低価格者（最高得点者以外）が落札した割合は、平成18年度の46．3％に対し、平成20年度は32．6％と13．7ポイント減少した。

〔簡易型〕

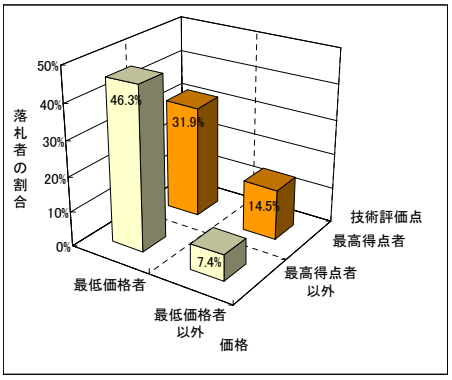


図3　落札者の内訳
（平成18年度）

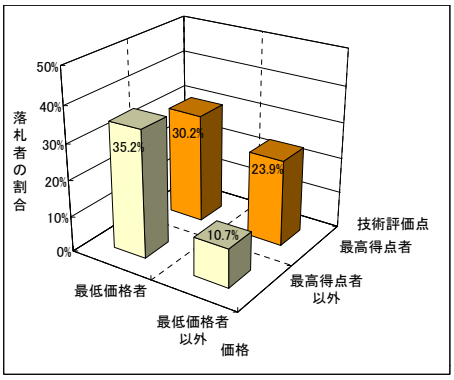


図4　落札者の内訳
（平成19年度）

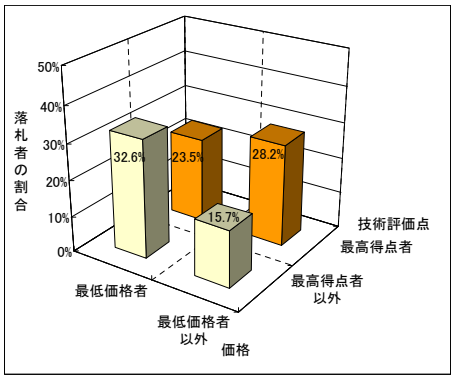


図5　落札者の内訳
（平成20年度）

注1）8地方整備局を対象。（以降、P11～P23も同様。）

注2）主要4工種（一般土木、AS舗装、PC、鋼橋上部工）に該当する工事を対象。（以降、P11～P13も同様。）

注3）予定価格内1者の工事を除く。（以降、P11～P13も同様。）

2-2. 落札者の状況

簡易型では、平成20年度は平成19年度に比べ、加算点満点が「50点以上」のものの割合が減少し、「30～40点」のものの割合が増加している。これは、平成19年度まで簡易型で実施されていた工事の一部が平成20年度より標準型(Ⅱ型)で実施されることになったためと考えられる。

〔簡易型〕

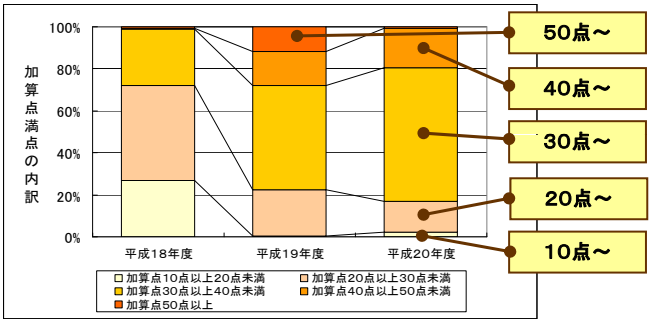


図6　年度別：加算点満点の内訳

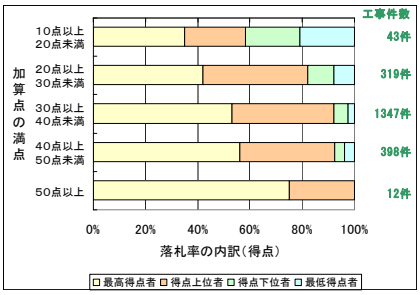


図7　加算点満点別：落札者の内訳（得点）
（平成20年度）

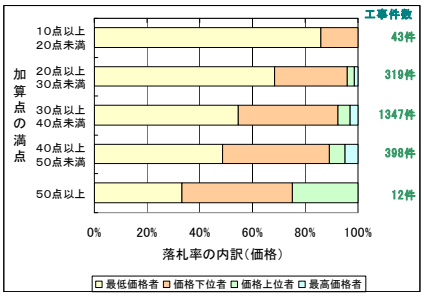


図8　加算点満点別：落札者の内訳（価格）
（平成20年度）

2-2. 落札者の状況

最高得点者（最低価格者以外）が落札した割合は、平成18年度の20．3％に対し、平成20年度は38．3％と18．0ポイント増加した。

一方で、最低価格者（最高得点者以外）が落札した割合は、平成18年度の42．5％に対し、平成20年度は24．6％と17．9ポイント減少した。

〔標準型〕

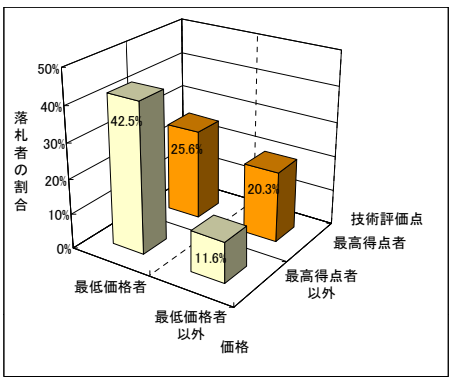


図9　落札者の内訳
（平成18年度）

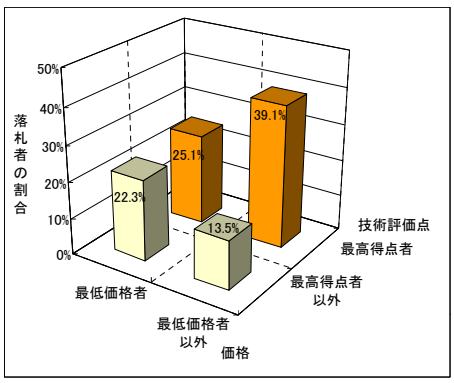


図10　落札者の内訳
（平成19年度）

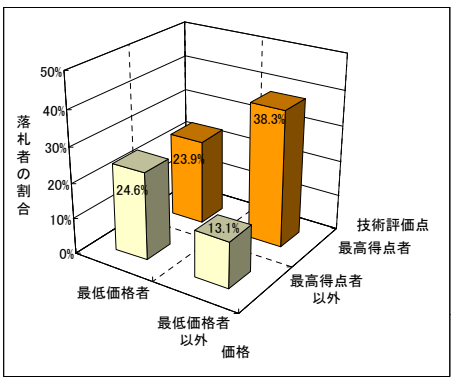


図11　落札者の内訳
（平成20年度）

2-2. 落札者の状況

標準型では、平成20年度は平成19年度に比べ、加算点満点が「70点以上」のものの割合が減少し、「30～40点」のものの割合が増加している。これは、平成19年度まで簡易型で実施されていた工事の一部が平成20年度より標準型(Ⅱ型)で実施されることになったためと考えられる。

〔標準型〕

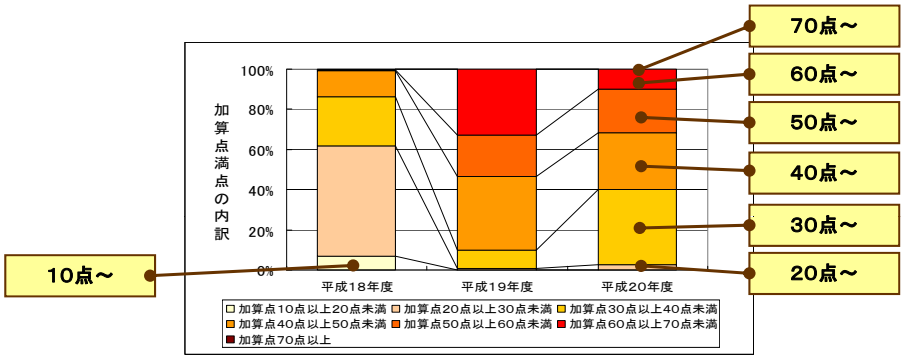


図12　年度別：加算点満点の内訳

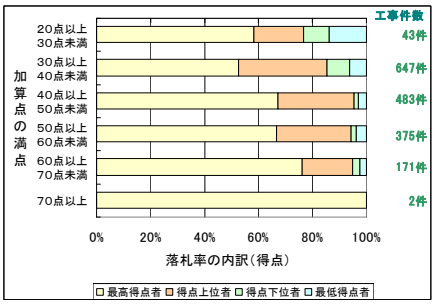


図13　加算点満点別：落札者の内訳（得点）
（平成20年度）

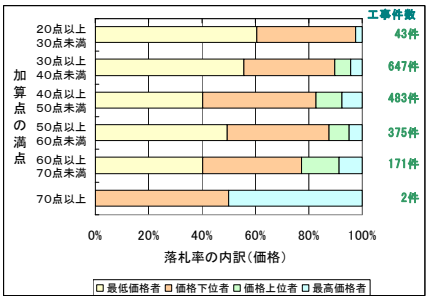


図14　加算点満点別：落札者の内訳（価格）
（平成20年度）

2-3. 高度技術提案型の実施状況

平成20年度の高度技術提案型において、高度技術提案型では、落札率75％以下のものが見受けられる。

なお、低入札件数と割合の推移をみると、平成20年度は平成19年度に対し、低入札の状況に変化はみられない。

〔高度技術提案型〕

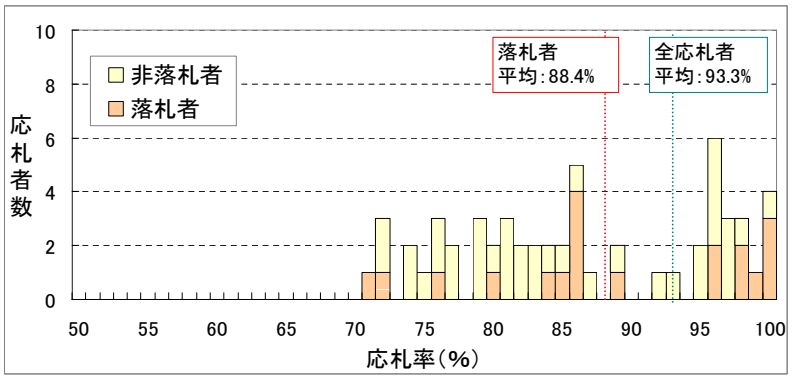


図15　応札率の分布　高度技術提案型
（平成20年度）

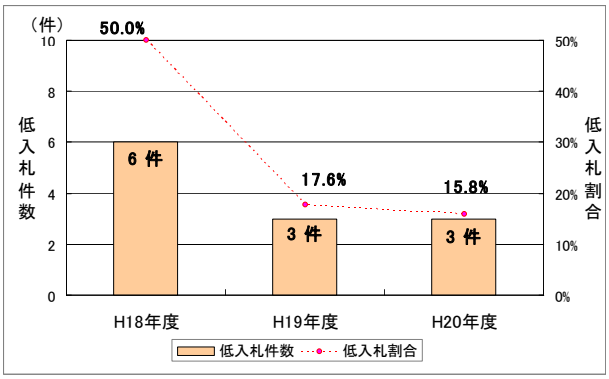


図16　低入札件数と低入札割合（件数）の推移
高度技術提案型　（平成18～20年度）

注1）全工種を対象。（以降、P15～P16も同様）

2-4. 施工体制確認型の実施状況

新　規

平成20年度の簡易型において、施工体制確認型は施工体制確認型以外に比べ、落札者の応札率（平均）が3．8ポイント高く、応札率75％を下回る応札はほとんど見受けられない。
また、標準型においては、施工体制確認型は施工体制確認型以外に比べ、落札者の応札率（平均）が2．9ポイント高く、応札率75％を下回る応札はほとんど見受けられない。

〔簡易型〕

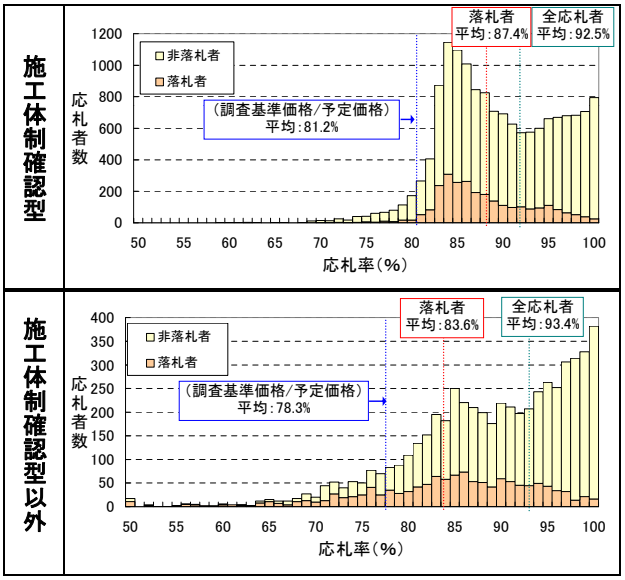


図17　応札率の分布　簡易型　（平成20年度）

〔標準型〕

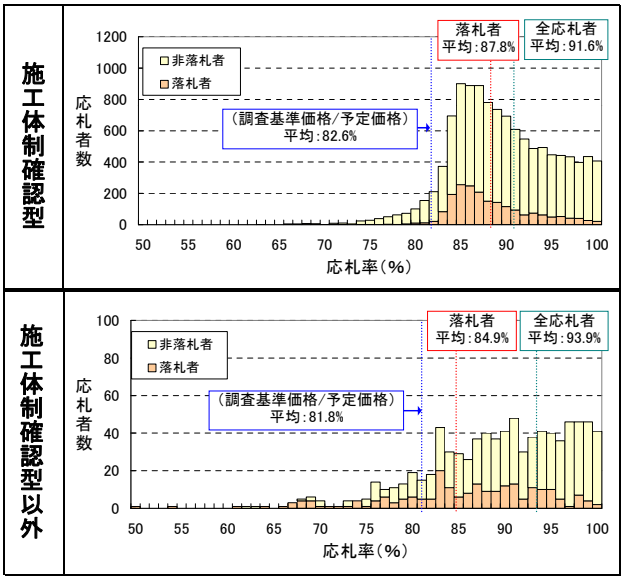


図18　応札率の分布　標準型　（平成20年度）

2-4. 施工体制確認型の実施状況

新　規

簡易型、標準型において、落札率別の工事成績評定点（平均）をみると、平成18年度の施工体制確認型実施以前の落札率70％未満の工事に比べ、平成19年度の施工体制確認型の落札率70％～80％の工事成績評定点が2．6点高い。

〔簡易型〕

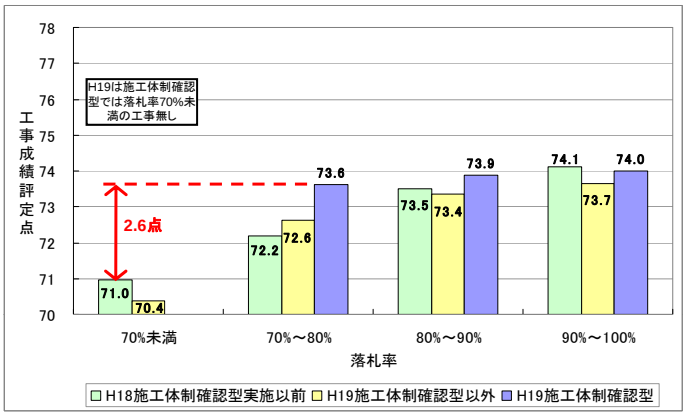


図19　落札率別の工事成績評定点　簡易型
（平成18年度，平成19年度）

〔標準型〕

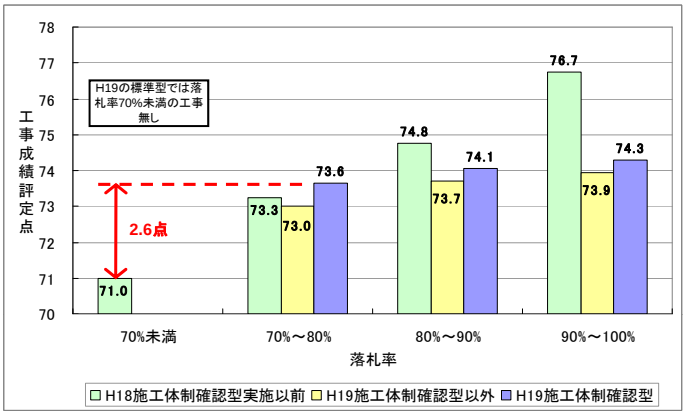


図20　落札率別の工事成績評定点　標準型
（平成18年度，平成19年度）

注1）平成18年度は上半期データを使用（以降、P17も同様）

2-4. 施工体制確認型の実施状況

新　規

平成18年度、平成19年度の簡易型の工事成績評定点をみると、施工体制確認型以外では、多くの工種で、落札率70％未満の工事の工事成績評定点が落札率70％以上の工事より低い。

〔簡易型〕

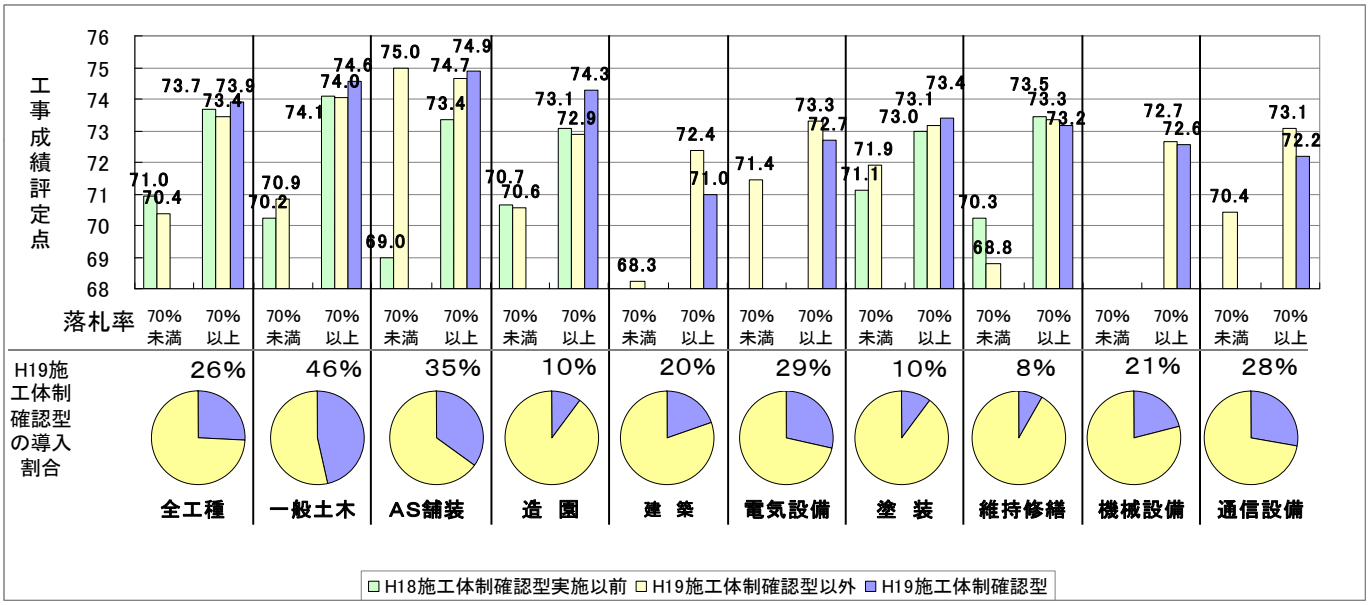


図21　落札率別の工事成績評定点　簡易型　工種別（平成18年度，平成19年度）

注1）工種別は、平成19年度の実施件数が100件以上の工種を対象。なお、標準型については、100件以上の実績がある工種がなく、かつ落札率70%未満の工事もないため、ここでは簡易型のみを対象とした。

3. 実績重視型の実施状況

3-1. 補正予算による簡易型工事のうち実績重視型の実施状況

新　規

各地整での補正予算により発注した簡易型工事件数のうち実績重視型の実施件数の割合をみると、全てが実績重視型である地整や、約6割が実績重視型である地整がある一方、実績重視型の割合が約2割の地整も見受けられる。

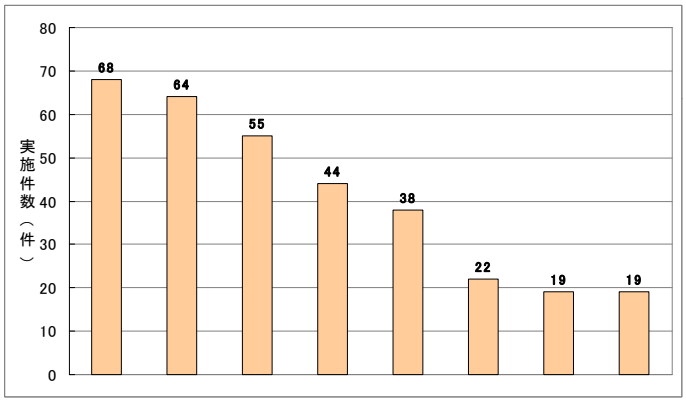


図22　補正予算による簡易型工事件数のうち実績重視型の実施件数　地整別　（平成20年度）

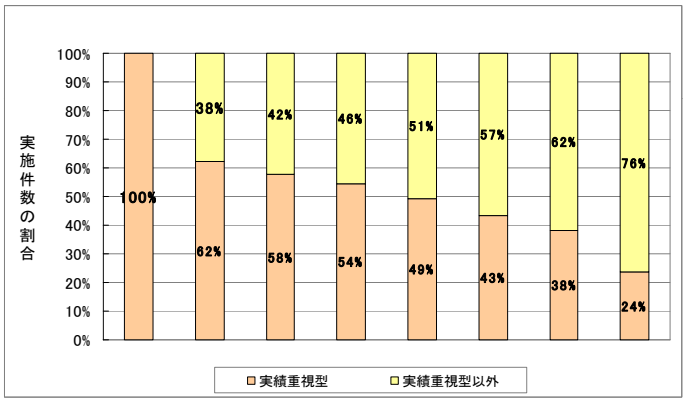


図23　補正予算による簡易型工事件数に占める実績重視型の実施件数の割合　地整別　（平成20年度）

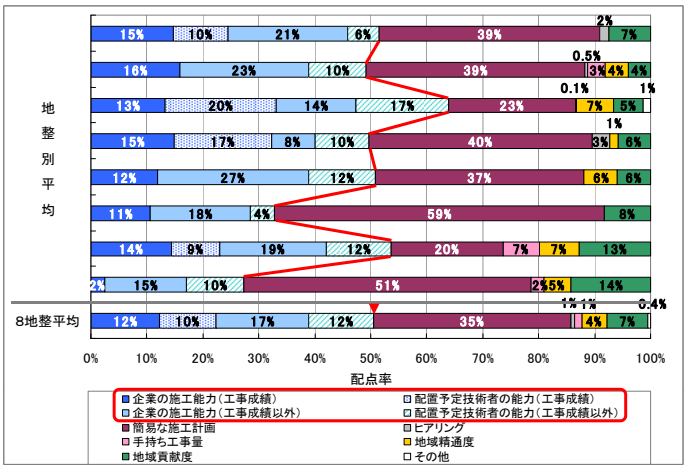
注1）全工種を対象。（以降、P20～24も同様）

注2）補正予算による簡易型工事のうち実績重視型を対象。（以降、P20～22も同様）

3-2.実績重視型の評価項目、配点・得点

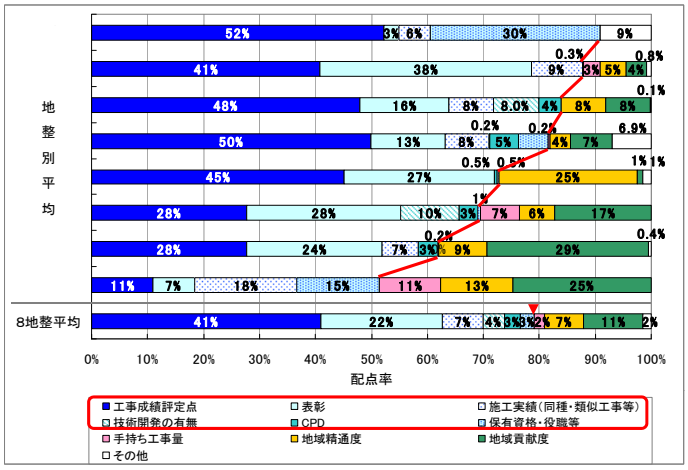
新　規

評価項目別配点の配点割合をみると、配置予定技術者又は企業の施工能力（工事成績評定、表彰、施工実績（同種・類似工事等）など）の配点割合は、平成19年度の簡易型（実績重視型導入以前）では、3割～6割程度であったが、平成20年度に実施した実績重視型では、5割～9割程度となった。



配置予定技術者又は企業の施工能力

図24　配点の内訳　簡易型（実績重視型導入以前）地整別　（平成19年度）



配置予定技術者又は企業の施工能力

図25　配点の内訳　簡易型（実績重視型）地整別　（平成20年度）

注1）配点の内訳：当該評価項目の配点／実績重視型評価項目の配点合計。

注2）平成19年度は主要4工種、平成20年度は全工種を対象。

3-2.実績重視型の評価項目、配点・得点

新　規

実績重視型(全工種)の落札者の得点内訳をみると、配置予定技術者又は企業の施工能力(工事成績評定、表彰、施工実績(同種・類似工事等)の割合は4割～9割程度である。

また、落札者の得点率は、2割～7割程度である。

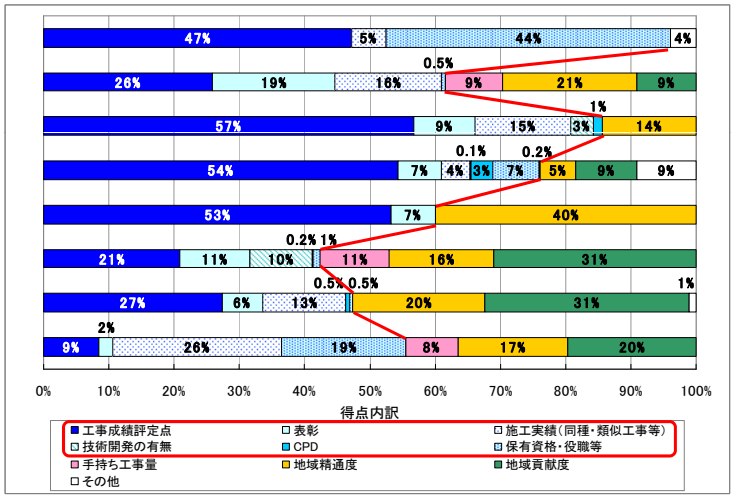


図26　落札者の得点内訳　地整別　(平成20年度)

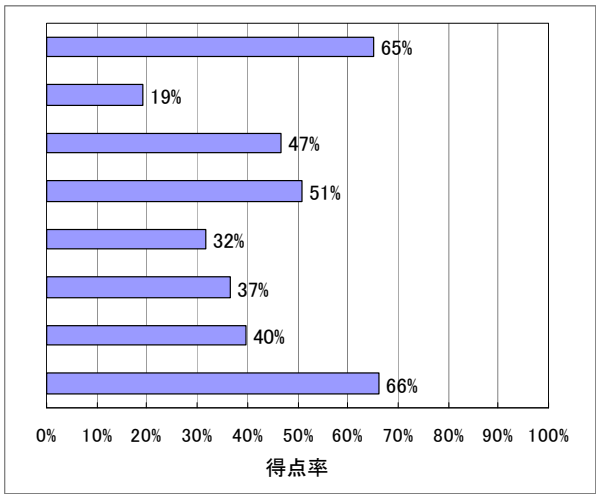


図27　落札者の得点率　地整別　(平成20年度)

配置予定技術者又は企業の施工能力

注1)得点内訳;落札者の当該評価項目の得点／実績重視型評価項目の得点合計。

注2)得点率;落札者の評価項目の得点合計／実績重視型評価項目の配点合計。

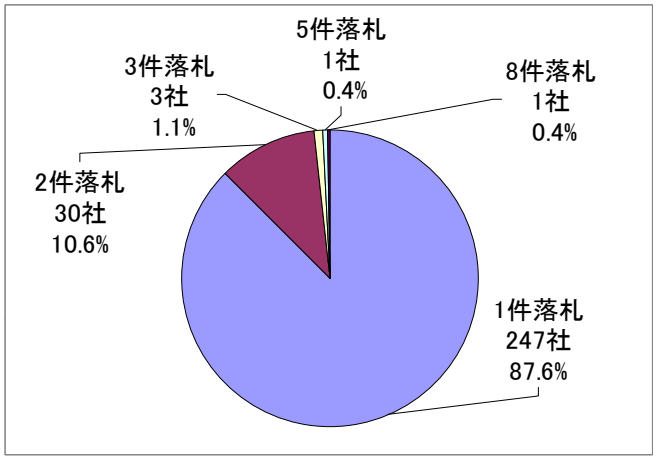
3-3. 落札件数別の業者数内訳

新　規

落札件数別の業者数を全国ベースでみると、全工種の場合、実績重視型329件のうち、落札件数1件の業者が約9割(247社)である。

これに落札件数2件(30社)を加えると、ほぼ100%である。

〔全工種〕



〔一般土木〕

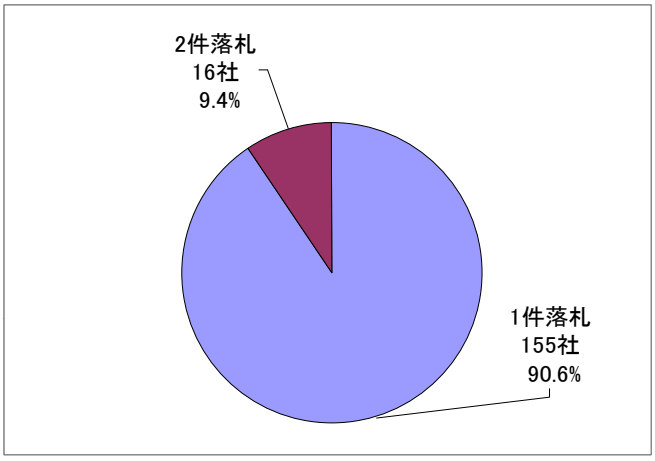


図28　落札件数別の業者数　(平成20年度)

3-4. 実績重視型による期間短縮

新　規

平成20年度の実績重視型を導入した工事における公示日から入札日までの平均所要日数は、実績重視型を導入していない工事に比べ、半数の地整で2週間以上短縮し、3週間程度となっている。

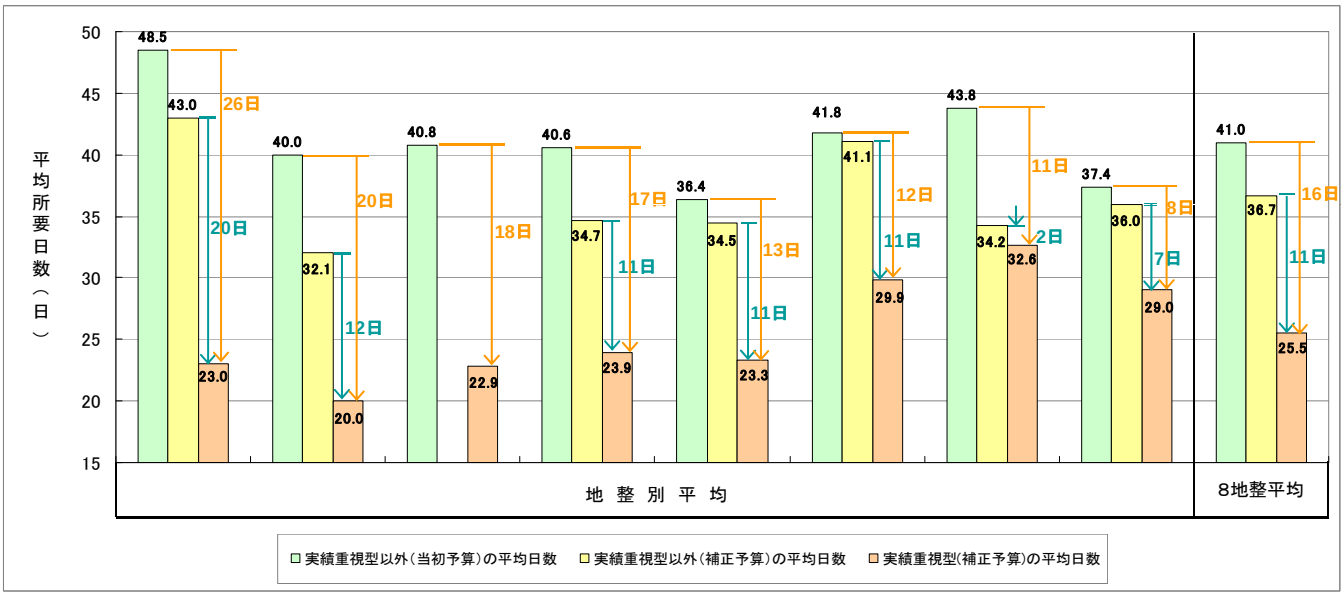


図29　公告日～入札日までの平均所要日数（平成20年度）

注1）平均所要日数：各地整における公告日～入札日の間の日数の平均値。

3-5. 工事の成績評定と技術評価点の関係

新　規

平成20年度の簡易型において、工事成績評定点の分布をみると、「実績重視型以外」のピークの方が、実績重視型の工事より高い得点域にあるが、平均点を比較すると「実績重視型」「実績重視型以外」とも75点程度である。

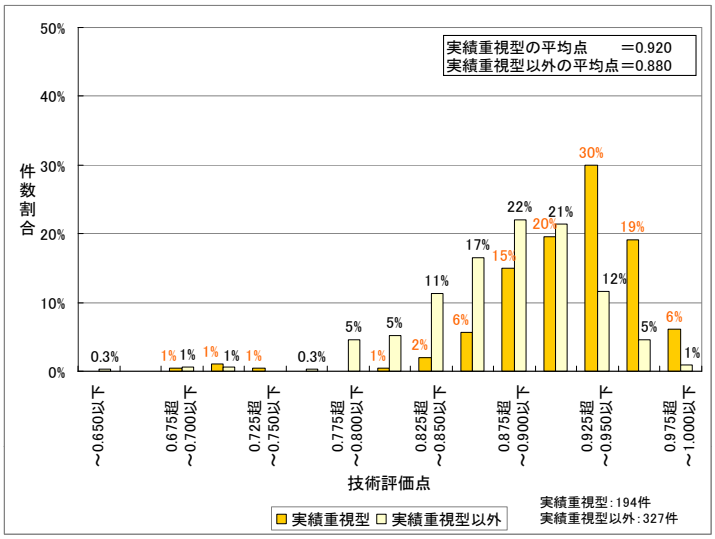


図30　技術評価点の分布

（平成20年度）

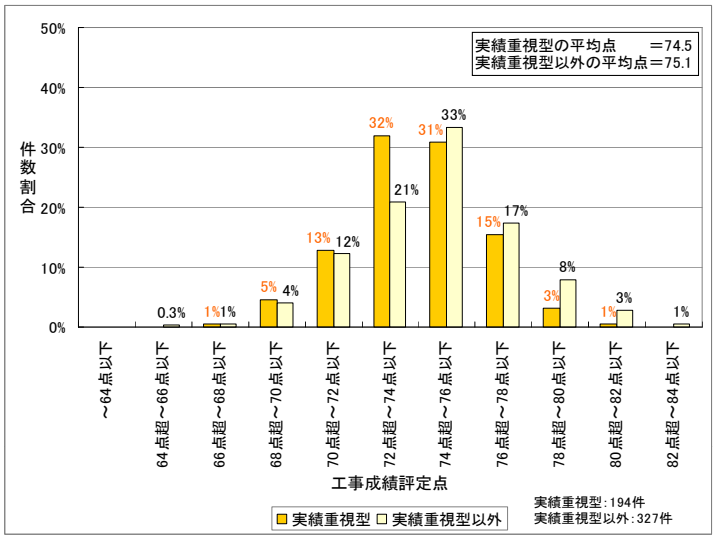


図31　工事成績評定点の分布

（平成20年度）

※実績重視型総合評価方式を実施した工事のうち、工事成績評定点が確定しているもののみを使用。

注1）ここでいう技術評価点は、『技術評価点／(標準点+加算点満点+施工体制点)』である。